

高卒就職のデジタル化に向けた検討について

1 高卒就職のデジタル化の重要性

新規高等学校卒業者向け求人票（以下単に「求人票」という。）については、現状、ハローワークは、求人企業から申し込まれた求人内容を法令等に照らして確認した後、紙の求人票に押印の上、求人企業に返戻しており、求人企業が高校に求人票を送付する際も、多くの場合、紙の求人票が持参又は郵送されている。

その結果、令和6年11月21日開催の規制改革会議「働き方・人への投資ワーキング・グループ」でも議論されたとおり、就職関係業務に携わる教職員による紙媒体の整理等の業務負担が増大しているとの指摘があるほか、生徒にとっては、膨大な紙媒体から求人を検索するのが困難であるだけでなく、閲覧場所が進路指導室に限定されるなどの問題があり、教職員の負担軽減及び生徒等の求人検索の利便性向上の観点から、高卒求人票の取扱いをはじめとする高卒就職に関する事務のデジタル化を進めることは重要な取組であると考えられる。

2 高卒 WEB の改修

このため、現在、公開された高卒求人情報を進路指導担当教諭や就職を希望している生徒に提供している高卒就職情報 WEB 提供サービス（以下「高卒 WEB」という。）に指定校求人も追加する等、高卒就職関係業務の一層のデジタル化を進められるよう、改修を検討してまいりたい。

（1）基本的な考え方

- ① 高卒就職における学校推薦や指定校求人の仕組みは維持しつつ、一人一社制にも複数応募制にも対応したもの（いずれであっても事務に支障が生じないもの）とすること。
- ② 義務教育を終えてから間がなく社会人経験のない生徒の円滑な適職選択、生徒の主体的な職業選択のための求人情報へのアクセス性向上、教員等による効果的な職業指導、及び教職員や企業の人事担当者の負担軽減に資するものとする。

（2）留意点

- ① 現行システムは、開発から時間が経過しており、改修規模が大きなものとなる見込みであることを踏まえると、どのような改修内容とすべきか精査した上でシステムを構築し直す必要があると考えられる。改修にはある程度の年数を必要とすると考えられるため、次々期の大規模システム更改の時機に合わせる事が適当である。
- ② 改修内容については、厚生労働省の職業紹介システムに搭載することが適切

かどうかや、十分に効果が見込まれるかどうか等を検証したうえでの選定となる。また、リリースは段階的なものとなる可能性がある。

(3) 今後の進め方

(1) に示した基本的な考え方の下、学校と求人企業の双方から広く意見を聞いて精査した上で、高卒 WEB の改修内容を検討する。

意見の収集に当たっては、高等学校就職問題検討会議（以下「全国会議」という。）及び都道府県高等学校就職問題検討会議（以下「都道府県会議」という。）の場を活用させていただきたい。

[今後の想定スケジュール※]

令和 8 年春頃	全国高等学校長協会（分科会を含む。）及び経済団体に対し、今後、都道府県会議を通じて、高卒 WEB の改修について意見を求める旨を説明
同年夏頃	都道府県会議（臨時）において議論
同年秋頃	都道府県会議の意見を集約して、新システムに実装する機能を精査
令和 9 年 2 月	全国会議において、意見集約の結果と新システムの概要案を報告
令和 14 年頃	リリース

※ リリースが最速で実現する場合のスケジュール。(2) のとおり、リリースの時期は令和 14 年以降となり得るほか、複数年度にわたる逐次改修の可能性もある。

3 当面の対応

今後、厚生労働省において、高卒 WEB の改修に向け必要な検討を進めていくが、教職員の負担軽減は喫緊の課題であることから、当面の対応として、ハローワークから求人企業への求人票の返戻と、求人企業から高校への送付について、令和 9 年度卒業生からの適用を目指し、先行してデジタル化することとしたい。

このデジタル化は求人票の PDF 化により行うこととし、教職員の負担軽減を旨とするほか、簡易な検索方法により、求人検索の改善に寄与するものとなる方向で検討する。